

地域の子どもは、地域で育てる ～楽しく、元気に、いきいきと～

大月町放課後子ども教室（大月町）

1 基本データ（平成27年度）

- 対象校区：大月町立大月小学校（全校児童数207名）
- 開設年度：平成21年度
- 開設日数：年間185日開設（月～金実施）
平日：180日、日曜日：1日
長期休業期間：4日（夏休み4日）
- 開設時間：平日 14:20～17:30
長期休業期間 9:00～12:00
- 主な活動場所：大月小学校多目的教室、体育館等
- 参加児童数：平均50名/日・登録200名（希望申し込み制）
1年生29名、2年生27名、3年生35名、
4年生41名、5年生23名、6年生45名
- 支援者数：平均配置人数6名/日・スタッフ総数22名
コーディネーター1名、教育活動推進員21名



校章



2 活動の流れ

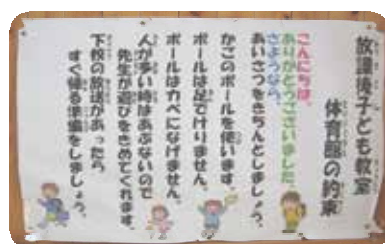
【平日】

- 14:15～ 子ども教室スタッフ出勤
活動準備
- 14:20～ 児童下校開始
多目的室：宿題、書道等
体育館：スポーツ活動
自由遊び等
- 16:35 スクールバス発車
子ども教室終了

【長期休業期間】

- 8:45～ 子ども教室スタッフ出勤
活動準備
- 9:00～ 児童受入開始
宿題等
体験活動
- 12:00 子ども教室終了

各活動場所でのルール



本日実施している子ども教室についてのお知らせ



学校の多目的室では、主に宿題、硬筆等に取り組んでいます。参加児童数が多い場合は、別室を開放することもあります。

3 運営の仕組み



■運営委員会について

実施主体である大月町教育委員会は「大月町放課後子ども教室運営委員会」を開催し、子ども教室の実施方針を話し合い、委員の方々からさまざまなアドバイスをいただいています。

運営委員：老人会、婦人会、教育長、学校関係者、大月町小中PTA連合会長、放課後子ども教室実行委員会代表

■実行委員会スタッフについて

子ども教室の運営は、大月町教育委員会が「大月町放課後子ども教室実行委員会」に委託する形で実施されています。実行委員会には、現在22名のスタッフが登録しています。毎月20日頃には、スタッフを中心とした定例会を開催し、情報共有等を図っています。

定例会参加者：大月町教育委員会担当者、大月小学校関係者、子ども教室スタッフ

主な議題：子どもの様子、反省点と改善点、翌月の予定、学校からのお知らせ



4 コーディネーターの横顔



コーディネーター
伊与田 正伸さん

活動例

- 11:00～ 教育委員会訪問書類等提出
- 14:00～ 子ども教室へスタッフへの連絡事項伝達
- 16:30～ 定例会出席

問1:活動に興味をもったきっかけは?

答1：以前は学校で仕事をしていたのですが、退職した後に6年間公民館長をしていました。その時、小学校帰りに公民館に寄っていく子どもたちと一緒に宿題をしたり、遊んだりしていました。子どもたちが高校生になった時に再会すると「あの時、一緒に宿題してくれたのが楽しかったよ～」と言ってくれたことが印象に残って、放課後等に子どもたちの居場所づくりをしたいと感じるようになりました。

問2:コーディネーターとして、どのようなお仕事をされていますか?

答2：学校や地域との連携が密になるよう情報交換を行ったりします。また、子ども教室の運営に関してはスタッフの勤務表を作成したり、活動計画を作成します。また放課後のスタッフに欠員が出た場合は新たに人材を探して声かけなどもします。

問3:子ども教室の人材確保の際、配慮されている点はありますか?

答3：子どもたちの活動を支える大事な仕事なので、配慮する点はたくさんありますが、まず、まじめで誰からも信頼されるような人に活動へ参加してもらえるようにしています。また、子ども教室での出来事などを外で話さない、情報管理について協力してもらえるような点も考慮しています。

5 活動の様子

大月町子ども教室では、下校からスクールバス発車時間まで、子どもたちが自分で放課後の過ごし方を主体的に選べる実施形態となっています。

■ 子ども教室利用時のルール



各活動場所の入り口にある参加者名簿に、名前と入室時間を自分で記入します。

<A君の放課後の過ごし方>

時間	内容
14:45	下校
14:50	子ども教室参加 多目的室：宿題 
15:15	運動場で友達と遊ぶ
15:50	子ども教室参加 体育館：卓球 
16:35	スクールバス 下校

自分で選ぶ放課後の居場所



体育館

多目的室

校庭・中庭他

ワーク室



子ども教室を利用せず、友達と遊ぶことも放課後の大事な過ごし方です。



体育館では子どもたちが元気いっぱい身体を動かします。水曜日はバドミントン、木曜日は卓球の専用スペースを設けています。



子どもたちはその日の宿題に取り組みます。家庭学習の習慣を育てるため、日記等は帰宅後に取り組みむように声かけをしています。



毎週火曜日には硬筆教室、水曜日には書道教室も実施しています。継続して取り組むことで、どんどん上達する子どもがたくさんいます。



毎週水曜日に大月町の国際交流員の方に協力してもらい、英語教室を開いています。

子どもの声

子ども教室に来ると分からないところを教えてもらえるし、家に帰って楽なので嬉しいです。

体育館はボールやバドミントン、バスケットかの遊びがたくさんあって楽しいです。



友達のお家までは、遠くて遊びに行けないので、放課後に友達といっぱい遊べるのが楽しいです。

保護者の声

「先にやるべきこと」である宿題などに取り組む子ども教室があるので、宿題をしてから遊ぶという習慣づくりが進んだと思う。



家で宿題を教えてと言われても、高学年になるとなかなか……。そのため、子ども教室での宿題の取組はとてもありがたい。

硬筆や書道に毎週触れる機会があり、子どもにとってはとても良い環境だと思う。

6 イベントカレンダー

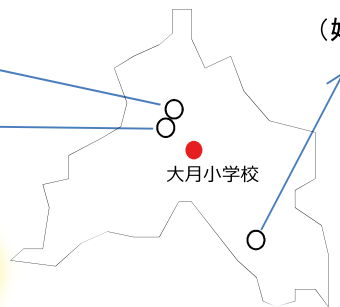
夏休みは児童がスクールバスを利用できないため、地域性を考慮し、複数箇所に分かれて放課後子ども教室を開催しています。

大月町農村環境改善センター
実施日：8月8日

大月町中央公民館
実施日：7月24日、8月24日
12月13日



夏休みには、竹とんぼを作る工作教室や流しそうめんその他、12月にはリース作り教室などを開催しています。



姫ノ井ふるさとセンター
(姫ノ井集落活動センター「姫の里」)
実施日：7月24日、8月27日



夏休みには宿題の見守りに加え、書道教室等を開催しています。

7 子どもたちの安全・安心な居場所づくりのために

避難訓練の実施

大月小学校が放課後に実施する避難訓練へ子ども教室も一緒に参加するなど、子どもたちの安全・安心な居場所づくりに取り組んでいます。

子どもたちは避難経路もしっかり覚えており、支援員の誘導がなくても自分達で避難行動を開始できています。



スクールバス下校への協力

大月町では下校時に8路線のスクールバスが出ています。コーディネーターの伊与田さんは、バスの運転手さんからある話を聞きました。

項目	内容	備考
1. 目的	児童の安全・安心な居場所づくり	
2. 趣旨	児童の安全・安心な居場所づくり	
3. 実施場所	大月町農村環境改善センター	
4. 実施日時	7月24日、8月27日	
5. 実施内容	工作教室、流しそうめん作り、竹とんぼ作り、リース作り	
6. 実施結果	児童の安全・安心な居場所づくりが実現した	

運転手さんの声

乗車中の言葉遣いやマナーなどが気になっても、運転に集中しなければならないので、うまく声かけができず悩んでいます。また、新1年生などは乗車中に疲れて寝てしまったり、バス停を間違えたりすることも・・・。

こうした声を聞いて、「何かできることは？」と考え、学校等とも相談しました。そして、新年度がスタートした1カ月間だけは、ボランティアで下校バスに同乗し、子どもたちの見守りを行うことにしました。

スクールバスは路線バスも兼ねているため、バスに不慣れな新生児等の見守りだけでなく、子どもたち全員が公共マナーを守り社会経験を積むための支援にもなり、保護者の方にもとても好評です。



学校では路線ごとのリーダーを決めており、子ども同士で助け合う姿もよく見られます。



添乗員さんのおかげで運転に集中できますし、子どもたちもマナーを守りスクールバスを利用する意識が高まるのではないのでしょうか。添乗員さんの存在はとても心強いです。